

調査の概要

1. 調査目的

平成 17 年度の裾野市民の市政に対する認識や要望、市民生活に関する意識を調査し、諸施策推進の基礎資料とすることを目的とする。

2. 主な調査項目

- (1) 定住意向、健康、環境、社会活動等
- (2) 裾野市の取り組みについて（政策の満足度及び重要度）
- (3) 広報・広聴について
- (4) 男女共同参画について
- (5) 文化について
- (6) 市有地について

3. 調査方法

- (1) 調査対象 市内在住の 20 歳以上 75 歳未満の男女
- (2) 抽出方法 住民基本台帳（平成 17 年 7 月 1 日現在）からの無作為抽出
- (3) 対象者数 3,000 人
- (4) 調査方法 返信用封筒同封による郵送法
- (5) 調査期間 平成 17 年 8 月 10 日(水) ~ 8 月 31 日(水)

4. 回収結果

有効回収数 1,252 票 回収率 41.7% （前回市民意識調査 H16 の回収率 45.5%）

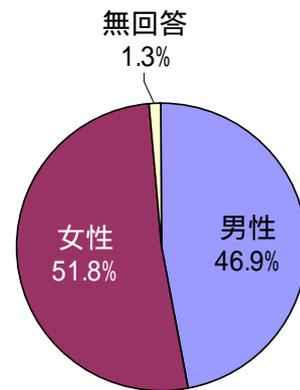
5. 地区別発送数及び回収数

地区	区分	発送数			回収数				回収率
		男	女	総数	男	女	性別不明	総数	
須山		33	33	66	16	9	2	27	40.9%
富岡		279	267	546	113	127	3	243	44.5%
深良		157	159	316	62	77	2	141	44.6%
東		466	470	936	174	218	5	397	42.4%
西		424	392	816	152	160	2	314	38.5%
千福が丘		78	82	160	36	28	1	65	40.6%
企業団地		103	57	160	18	15	0	33	20.6%
地区不明		-	-	-	16	15	1	32	-
合計		1,540	1,460	3,000	587	649	16	1,252	41.7%

回答者の属性

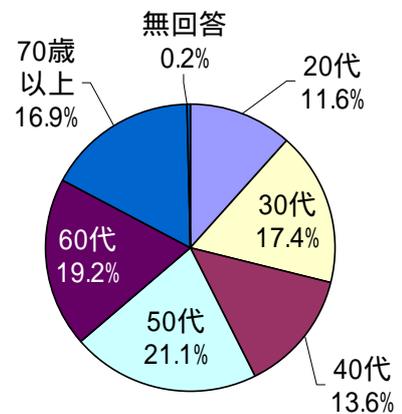
問1 性別

選択肢	人数	比率
1 男性	587	46.9%
2 女性	649	51.8%
無回答	16	1.3%
計	1,252	100.0%



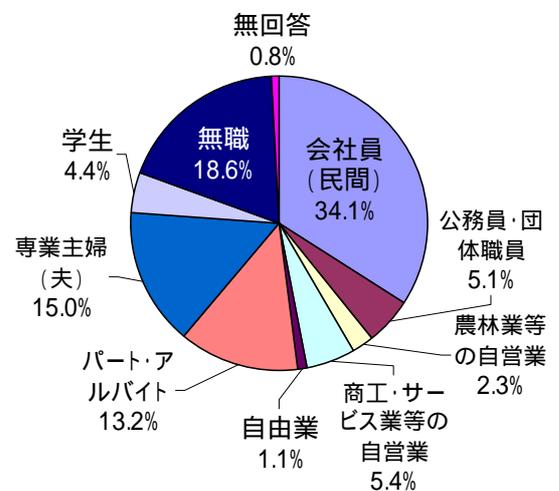
問2 年齢

選択肢	人数	比率
1 20代	145	11.6%
2 30代	218	17.4%
3 40代	170	13.6%
4 50代	264	21.1%
5 60代	241	19.2%
6 70歳以上	211	16.9%
無回答	3	0.2%
計	1,252	100.0%



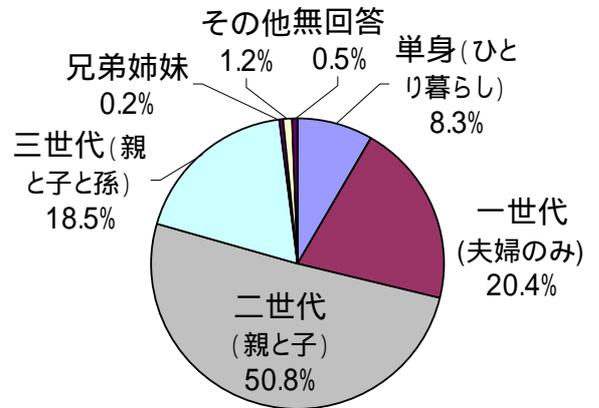
問3 職業

選択肢	人数	比率
1 会社員（民間）	427	34.1%
2 公務員・団体職員	64	5.1%
3 農林業等の自営業	29	2.3%
4 商工・サービス業等の自営業	67	5.4%
5 自由業	14	1.1%
6 パート・アルバイト	165	13.2%
7 専業主婦（夫）	188	15.0%
8 学生	55	4.4%
9 無職	233	18.6%
無回答	10	0.8%
計	1,252	100.0%



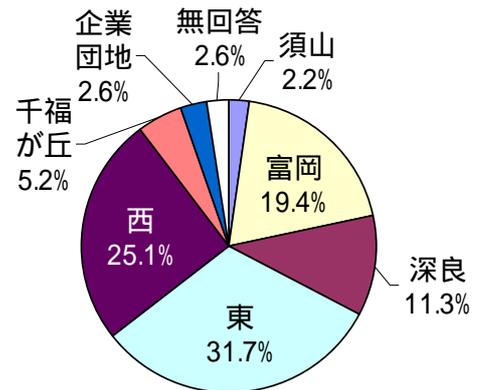
問4 家族構成

選択肢	人数	比率
1 単身(ひとり暮らし)	104	8.3%
2 一世代(夫婦のみ)	256	20.4%
3 二世世代(親と子)	636	50.8%
4 三世世代(親と子と孫)	232	18.5%
5 兄弟姉妹	3	0.2%
6 その他	15	1.2%
無回答	6	0.5%
計	1,252	99.9%



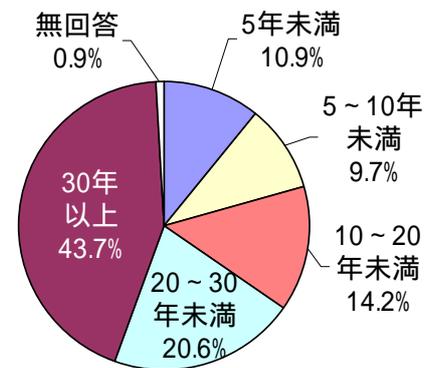
問5 居住地区

選択肢	人数	比率
1 須山	27	2.2%
2 富岡	243	19.4%
3 深良	141	11.3%
4 東	397	31.7%
5 西	314	25.1%
6 千福が丘	65	5.2%
7 企業団地	33	2.6%
無回答	32	2.6%
計	1,252	100.1%



問6 居住年数(通算)

選択肢	人数	比率
1 5年未満	136	10.9%
2 5~10年未満	122	9.7%
3 10~20年未満	178	14.2%
4 20~30年未満	258	20.6%
5 30年以上	547	43.7%
無回答	11	0.9%
計	1,252	100.0%



調査結果の概要

1 定住意向、健康、環境、社会活動等 問7～問13

- 定住意向については、「現在の場所に住み続けたい」が多く、6割強となっています。
- 適正体重については、「知っている」が多く7割強、体重のコントロールについては、「していない」が約5割となっています。
- 運動・スポーツの習慣については、「していない」が多く6割強となっています。
- 環境のために心がけていることとしては、「ゴミの分別やリサイクルを行う」が約8割、「テレビや照明などこまめに電源を切る」が約6割、「冷暖房の設定温度を控えめにする」が約6割となっています。
- 仕事以外に家庭の外で活動しているかどうかについては、「特に活動していない」が半数以上となっています。
- ボランティア活動については、「興味はあるが、活動できる状態ではない」4割強、「特に興味はない」2割強となっています。

2 裾野市の取り組みについて 問14～問15

- 第三次裾野市総合計画に位置づけられている51施策（38項目）に対する満足度・重要度について、分野別にみると、「健康・福祉・教育」分野では、施策全般で満足度・重要度とも高くなっています。特に満足度・重要度が高い施策として、「1.心身ともに健康で充実した生活を送る」「2.必要な時に適切な医療が受けられる」があげられています。
- 「自然・環境・都市基盤・安全」分野では、満足度は各施策でばらつきがありますが、重要度は施策全般で高くなっています。特に満足度が低い施策として、「19.裾野の顔となる拠点市街地の整備」「23.鉄道・バスの便利さ」があげられています。
- 「地域産業」分野では、施策全般で満足度・重要度のいずれも低くなっています。
- 「市民主体・行財政」分野では、施策全般で満足度は低いものの重要度は高くなっています。
- 市の政策全体については、「どちらとも」が半数近くを占めています。

3 広報・広聴について 問16～問25

- 『広報すその』については、「ほとんど読んでいない」「全く読んでいない」が約14%であり、その理由は「興味がない」、「読んでいる時間がない」があげられています。
- 広報無線については、聞いている人と聞いていない人がそれぞれ5割弱となっています。
- 市政に対する意見や要望の伝え方については、「区長、組長等を通じて」が最も多く、3割強となっています。

- 市民の意見や要望が市政に取り入れられているかどうかについては、「わからない」が多く、4割強となっています。

4 男女共同参画について 問26～問33

- 性別による役割分担については、賛成が約4割、反対が5割強となっています。
- 家庭での役割分担については、現状では「男性は仕事、女性は家事」が2割強で最も多く、望ましい分担としては「男性女性ともに仕事、家事は男性女性で分担」が4割強と最も多くなっています。
- 分野別の男女の地位については、特に『社会通念や慣習・しきたり』、『社会全体』、『政治の場』、『職場』の4分野で、「男性優遇」「どちらかといえば男性優遇」をあわせた比率が高く6割強となっています。
- 育児休業制度、介護休業制度については、「男性も女性も積極的に利用した方がよい」が多く、4割強となっています。実際に利用した経験がある人は、育児休業約5%、介護休業2%と極わずかとなっています。

5 文化について 問34～問41

- 市の文化や歴史に親しむ機会が身近にあると感じている人は、1割程度となっています。
- 生涯学習活動や文化・サークル活動に取り組んでいる人は、1割程度となっています。
- 生涯学習情報紙については、「情報紙そのものを知らない」が最も多く、3割強となっています。
- 芸術鑑賞に出かける機会は、「年2～3回」が最も多く、約3割となっています。また、出かける施設としては、「県内近隣の施設」が4割弱となっています。

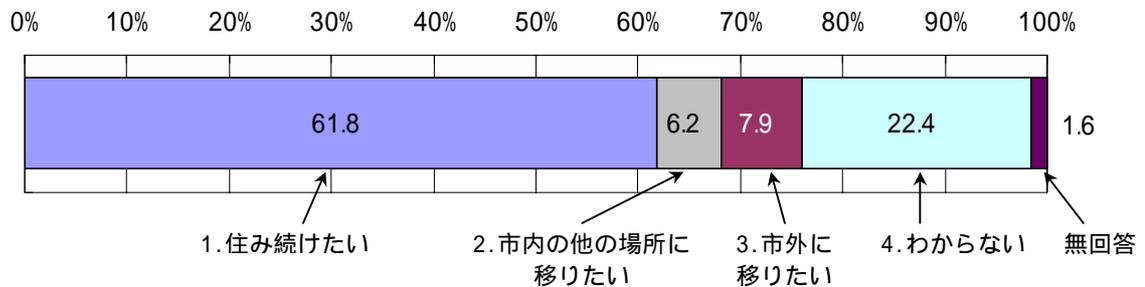
6 市有地について 問42～問43

- 市有地の利活用については、「主に自然環境の保全・創出による活用」が3割強、「自然環境の保全・創出、研究施設等の立地、レクリエーション施設等の複合的な活用」が約3割となっています。
- 市民の利用に関する具体的な整備内容としては、「自然度の高い森」が5割強、「ハイキングコース・散策路」が5割弱となっています。

調査結果

1 定住意向、健康、環境、社会活動等

問7 これからも、現在の場所に住み続けたいと思いますか？ 対象数 = 1,252



定住意向については、「1. 住み続けたい」が最も高く 61.8%となっています。一方、移住意向としては、「2. 市内の他の場所に移りたい」「3. 市外に移りたい」をあわせても、14.1%にとどまっています。

総合計画市民意識調査(H15)での同設問と比べ、「1. 住み続けたい」「2. 市内の他の場所に移りたい」「3. 市外に移りたい」が若干減っており、「4. わからない」と回答した人が約5%増えています。

【性別】

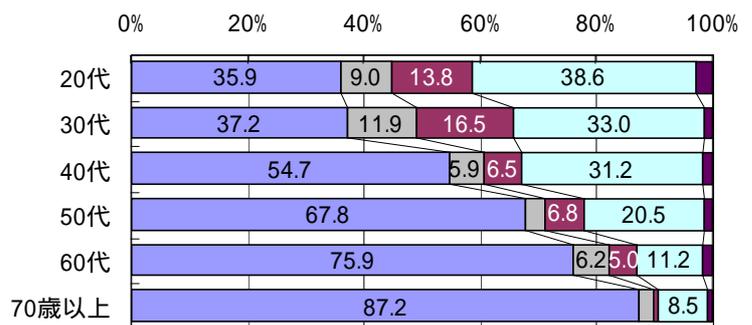
女性より男性の方が、「1. 住み続けたい」が高くなっており、65.6%となっています。



【年代別】

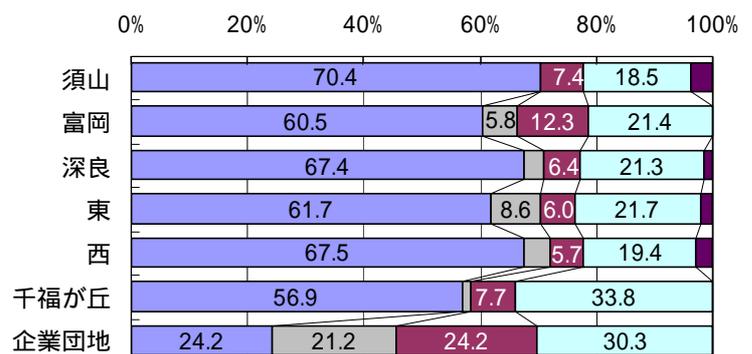
年齢が高くなるにつれて、「1. 住み続けたい」が高くなっており、70歳以上では87.2%となっています。

一方、「2. 市内の他の場所に移りたい」「3. 市外に移りたい」をあわせると、移住意向は30代の人が高くて、28.4%となっています。



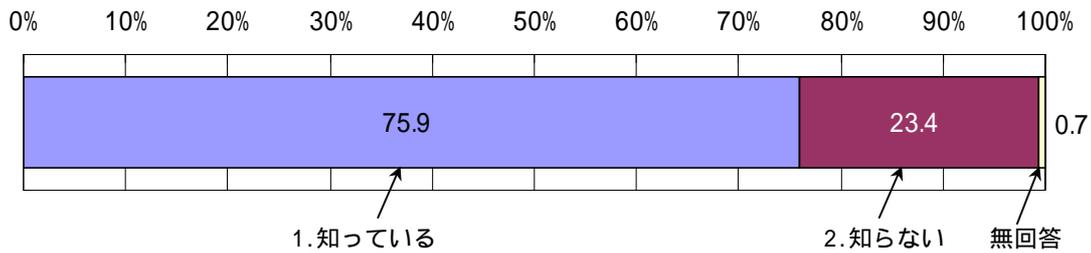
【地区別】

他地区と比べ、企業団地では「1. 住み続けたい」がかなり低く、24.2%にとどまっており、「2. 市内の他の場所に移りたい」「3. 市外に移りたい」24.2%とほぼ同じ割合となっています。



問8 ご自身の適正体重を知っていますか？

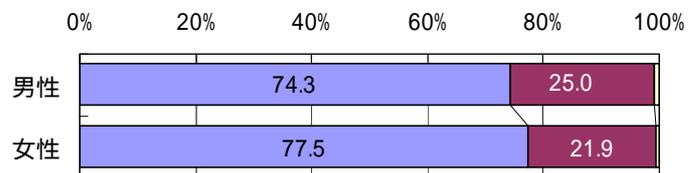
対象数 = 1,252



適正体重を「1.知っている」が高く、75.9%となっています。

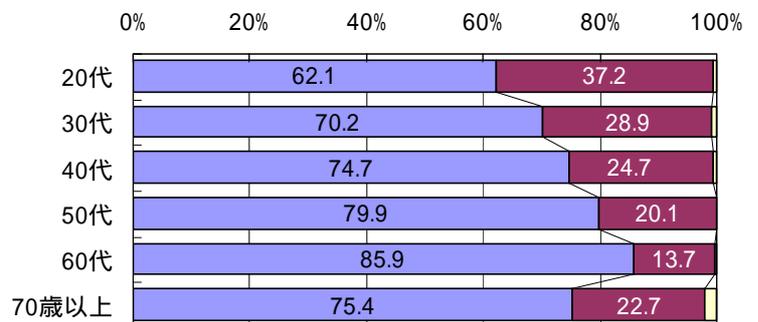
【性別】

男性より女性の方が「1.知っている」が若干高く、77.5%となっています。



【年代別】

年齢が高くなるにつれて、「1.知っている」が高くなる傾向にあり、60代では85.9%となっています。



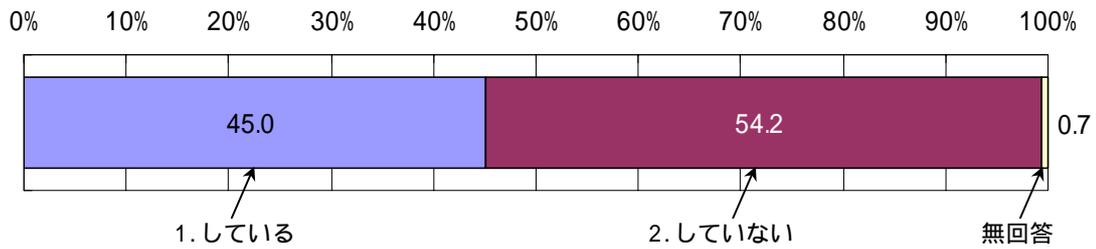
【地区別】

他地区に比べ、須山地区で「1.知っている」が高く、81.5%となっています。



問9 適正体重に近づくように体重をコントロールしていますか？

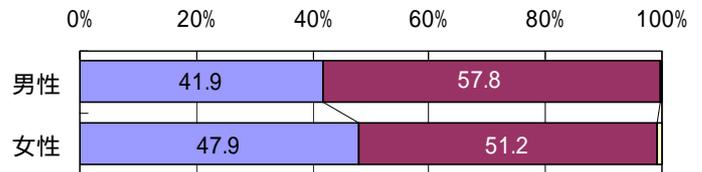
対象数 = 1,252



体重のコントロールを「1. している」よりも「2. していない」が高く、54.2%となっています。

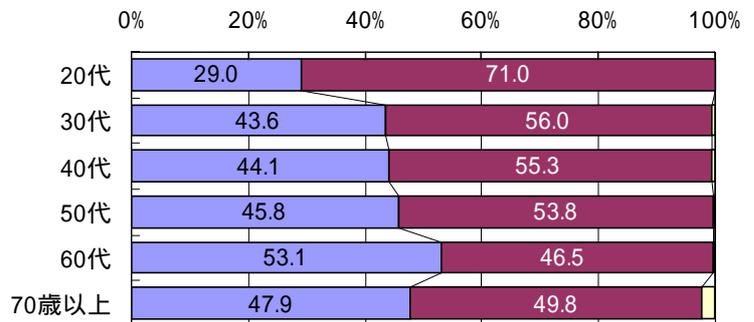
【性別】

男性より女性の方が、体重のコントロールを「1. している」人が高く、47.9%となっています。



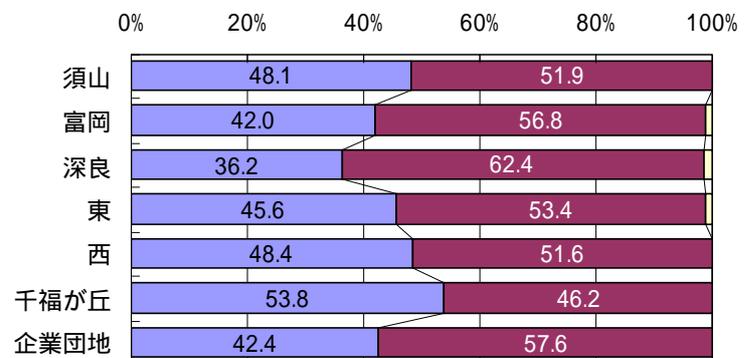
【年代別】

他年代に比べ、20代では体重のコントロールを「1. している」は低く、29.0%にとどまっています。60代のみ「1. している」が「2. していない」を上回っています。



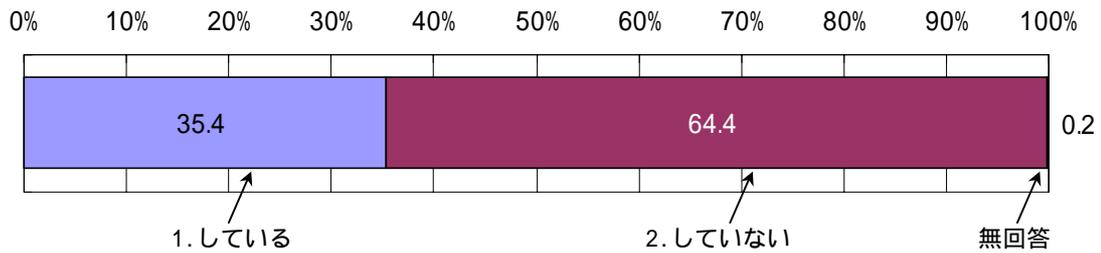
【地区別】

千福が丘のみ、体重のコントロールを「1. している」が「2. していない」を上回っています。



問 10 日頃から、運動・スポーツ（概ね週1回30分以上）をしていますか？

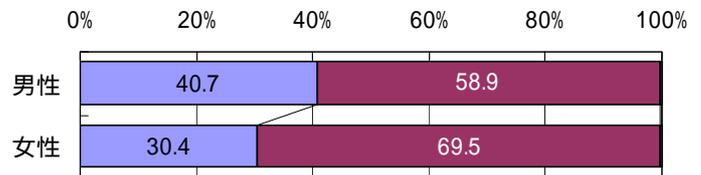
対象数 = 1,252



運動・スポーツを「1. している」よりも「2. していない」が高く、64.4%となっています。

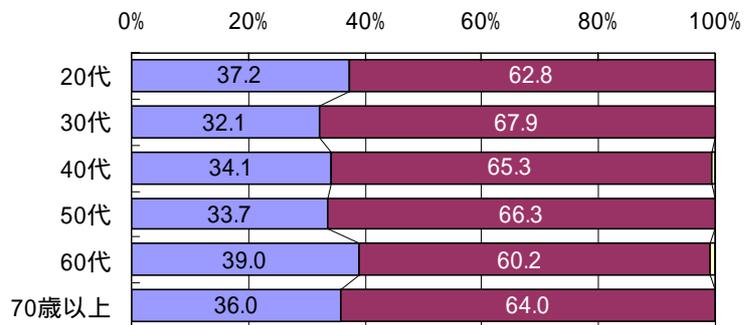
【性別】

運動・スポーツを「1. している」という男性は約4割、女性は約3割となっています。



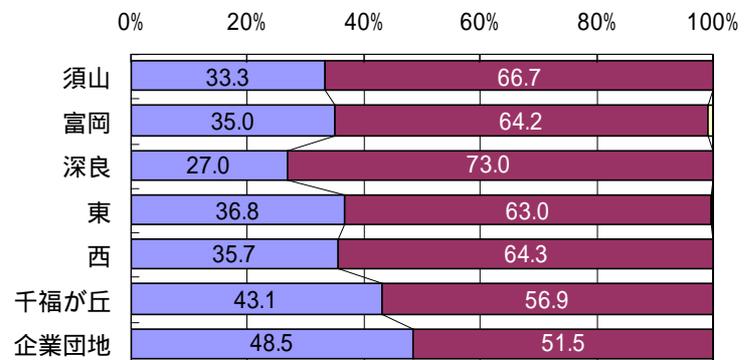
【年代別】

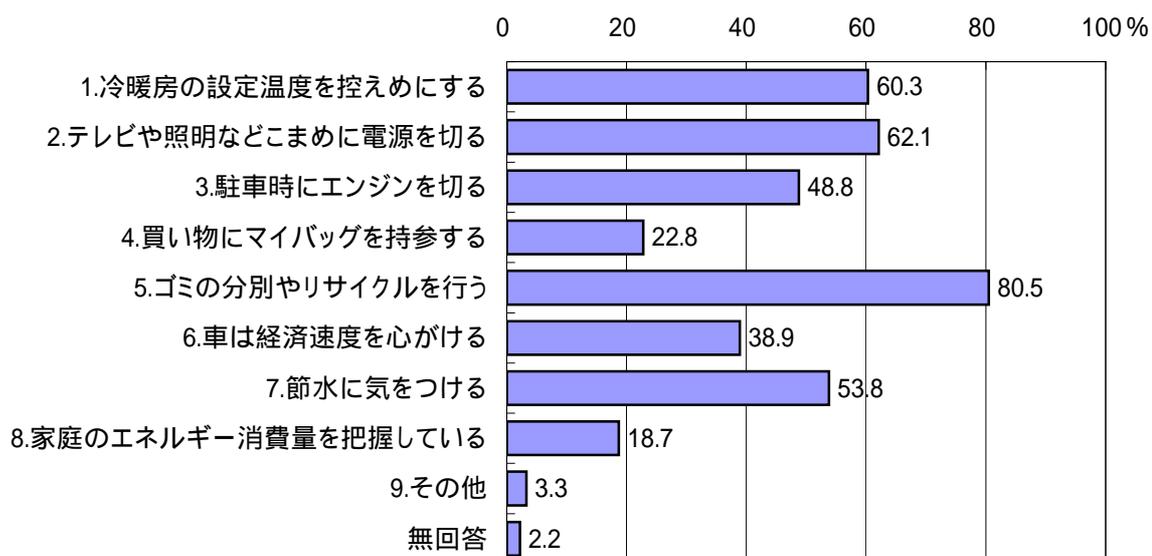
運動・スポーツを「1. している」が最も高いのが60代39.0%、次いで20代37.2%となっています。



【地区別】

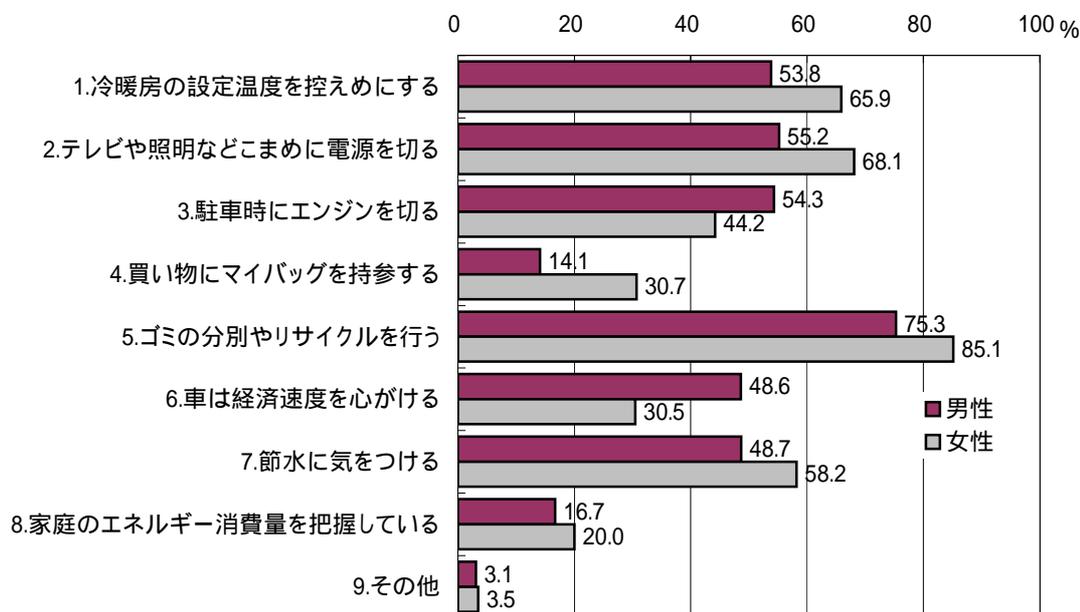
企業団地では、運動・スポーツを「1. している」が高い傾向となっています。





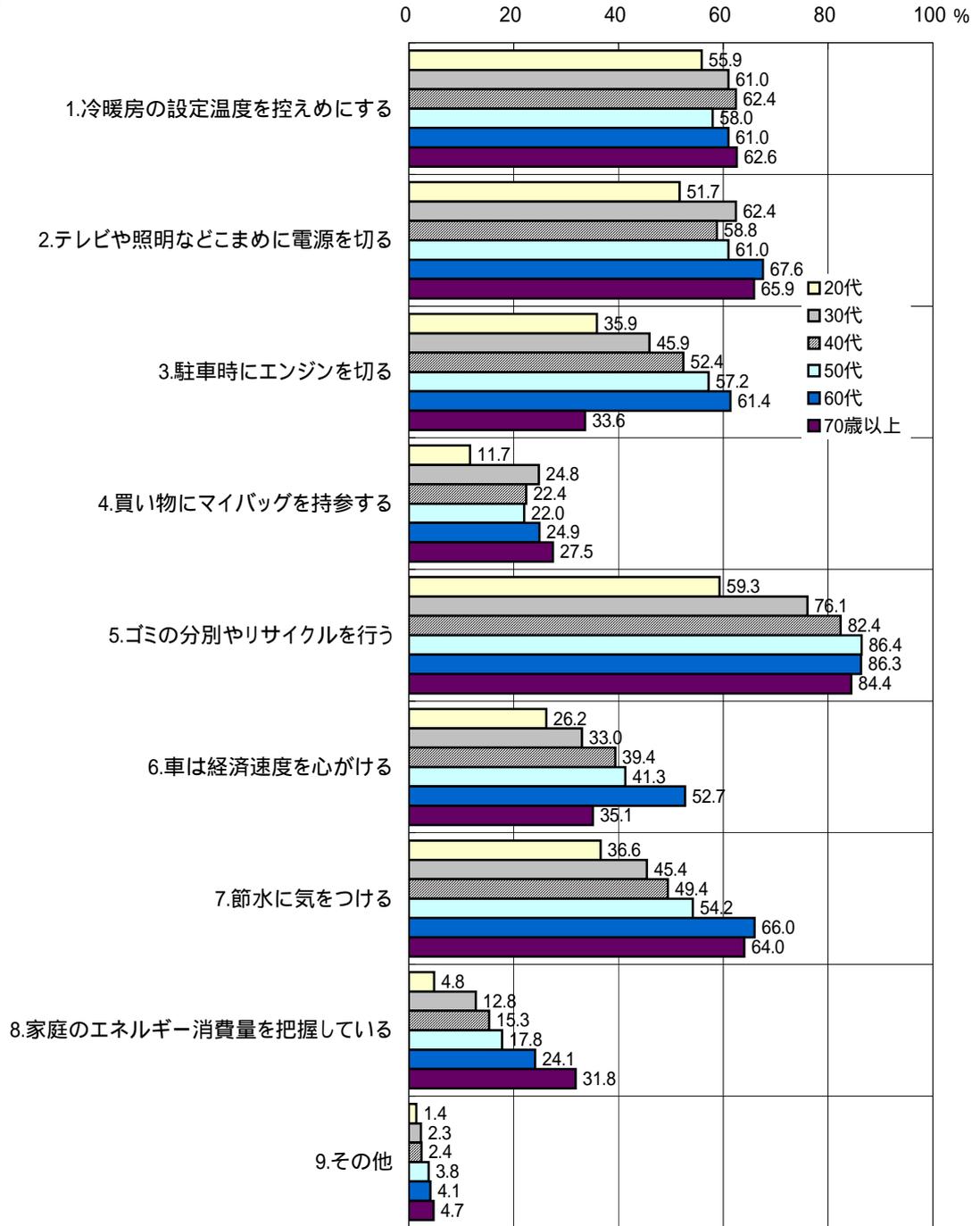
「5.ゴミの分別やりサイクルを行う」が最も高く 80.5%、次いで「2.テレビや照明などこまめに電源を切る」62.1%、「1.冷暖房の設定温度を控えめにする」60.3%となっています。一方、比率が低いものとしては、「4.買い物にマイバッグを持参する」22.8%、「8.家庭のエネルギー消費量を把握している」18.7%があげられています。

【性別】



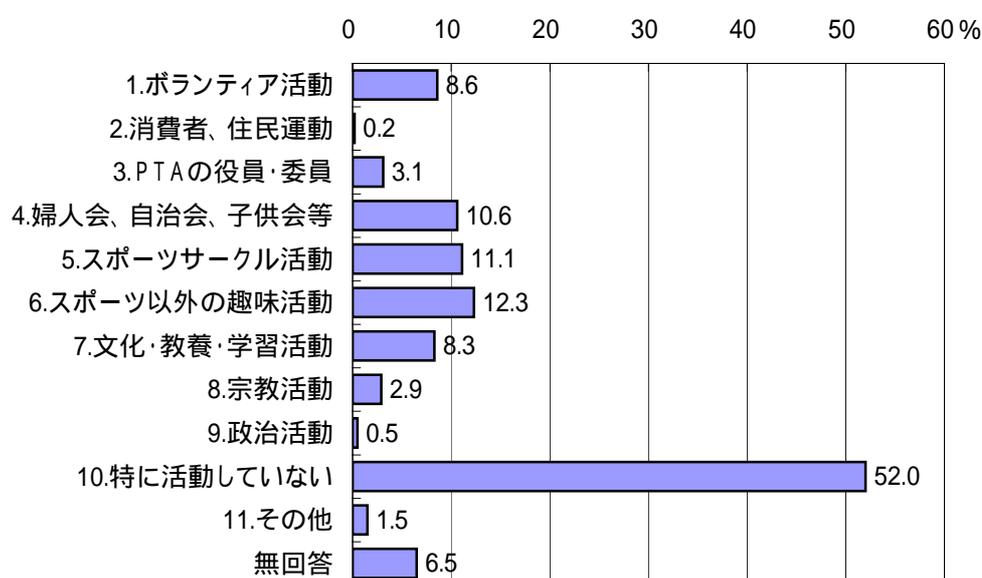
車を運転する機会が多いと思われる男性は、「3.駐車時にエンジンを切る」「6.車は経済速度を心がける」の項目で、女性より高くなっていますが、それ以外の項目では、全て男性より女性の方が高くなっており、特に「4.買い物にマイバッグを持参する」では、男性の倍以上の高い比率（男性 14.1%、女性 30.7%）となっています。

【年代別】



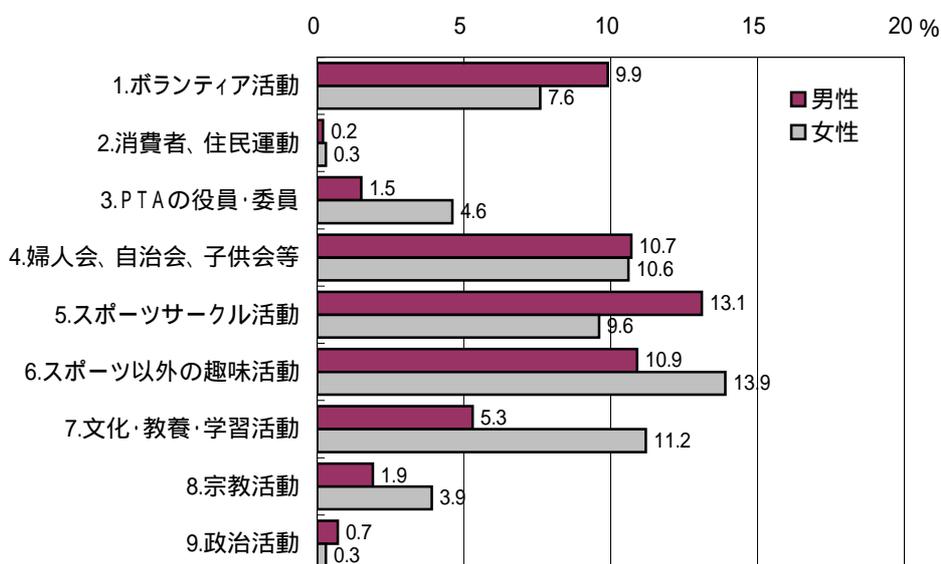
多くの項目で、若年層に比べ高齢層ほど、環境にやさしい生活を心がけている人が多い傾向にあります。

問 12 現在、仕事以外に家庭の外で、何か活動をしていますか？（該当するもの全て）対象数 = 1,252

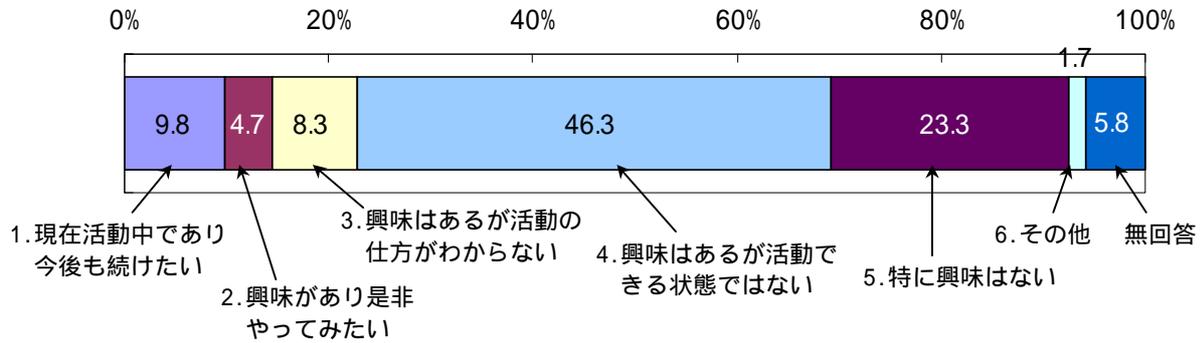


半数以上の方が「10. 特に活動していない」と回答しています。活動している内容としては、「6. スポーツ以外の趣味活動」12.3%、「5. スポーツサークル活動」11.1%、「4. 婦人会、自治会、子供会等」10.6%があげられています。

【性別】



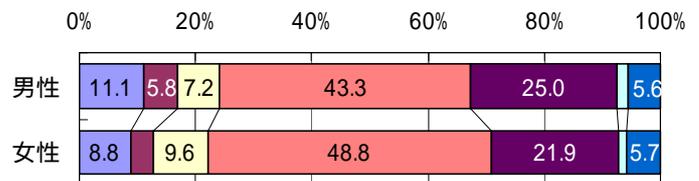
「1. ボランティア活動」「5. スポーツサークル活動」では、女性より男性の比率が高くなっています。一方、「3. PTAの役員・委員」「6. スポーツ以外の趣味活動」「7. 文化・教養・学習活動」では、男性より女性の比率が高くなっています。



「4.興味はあるが、活動できる状態ではない」が最も高く46.3%、次いで「5.特に興味はない」23.3%となっています。

【性別】

「1.現在活動中であり、今後も続けたい」「2.興味があり是非やってみたい」といった活動に積極的な人の比率は、女性より男性の方が高くなっていますが、一方で「5.特に興味はない」の比率も男性の方が高くなっています。



【年代別】

年齢が高くなるにつれて、実際にボランティア活動をしている人の比率は高くなる傾向にあり、60代では16.2%となっています。

